

■今月の特選句

2018年1月

鬼よりも卑劣なやから追儼かな

横山喜三郎

最近そういう輩（やから）が多いから、どの「やから」か特定するのが難しい。しかし、おそらくアイツだろう。鬼豆ぐらいじゃびくともせんがね。

通気性良しと言ひ換へ隙間風

堀川明子

なるほど、「もの」は言いようだね。肥満を立派な体格と言ひ、激痩せをスリムと言ひ、不美人の気立てを褒め、勉強嫌いを大器晩成と褒めます。

白息にからめとられてゐるベンチ

小林英昭

俳句は、読者参加型文芸。ベンチで話しているのは男女だろうと想像される。白息は女性のものだろう。男性は何を迫られているのだろうか。

一円か五円か迷う神の留守

鈴鹿洋子

俳句は正直を書いてこそ共感を得ることができる。しからば、「賽銭に万札もある神迎え」。神様の眩きは、「やはり留守にしちゃあダメだな」。

通院の日に二重丸初暦

西をさむ

定年となり家にいると曜日の感覚も忘れがち。こういう工夫は必要だね。えっ、通院はしたが薬を飲み忘れた。「薬飲み終へて暦に赤い丸」。

百段の筈が九十九神の留守

山本 賜

ただ単に、数え間違えただけのこと。それを、神が留守のせいだとした。まあ、何段でもいいんだけど、とにかく石段で躓かぬようにお願いします。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

冬巡業郷に従えモンゴル勢 ・・・お粗末すぎる相撲協会	泉 宗鶴
悴める手にファスナーの立ち往生 ・・・立ち往生に立ち往生か	稲葉純子
叩かれるさだめや小春日の布団 ・・・夫婦喧嘩の後は強めに	本門明男
あの人へ取り敢えず出す年賀状 ・・・添へ書きもまたありきたりなる	岡野 満
初雪にひらひら踊る両手かな ・・・体が冷えてくるんじゃないか	井口夏子
巫女の恋目を光らせて留守の神 ・・・留守の神にも目を光らせよ	高田敏男
置き書きにダーリンとあり鎌鼬 ・・・紅茶のダージリンのことかも	赤瀬川至安
懐の驕を乾かす日向ぼこ ・・・手元不如意で湿つてたのか	柳 紅生
白菜を泣かせてすわる重石かな ・・・石には辛く当たる意思なく	越前春生
火鉢にも第二の人生植木鉢 ・・・余生温める火鉢の失せて	中井 勇
神無月留守を預かる貧乏神 ・・・小銭じやらじやらせてコンビニ	小川鈍太
大根でも器量の佳きはすぐ売れて ・・・大根足は売れ残るのに	久松久子
家出するつもりの犬の防寒着 ・・・いろはかるたの棒に当たるぞ	南とんぼ

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | なにやかやごみと出銭の年の暮
どこへでもついて来る夫(つま) 草じらみ
煤逃の言い訳はせずとんずらす | 青木輝子
青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | 政ごとまたも有耶無耶霧深し
秋空や盆景に描く砂絵
半跏像おはす御堂の背に薄 | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 | 有らう事か沢庵好きを大言す
歯目利かず至安危ふし神無月 | 赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 【佳作】 | OKグーグルウイグルも今時雨るるか
鱈のあら鍋で大きく自己主張
干されをる大根(だいご)のラインダンスかな | 荒井良明
荒井良明
荒井良明 |
| 【佳作】 | 蛸の足絡みついでる風邪の床
国宝の屋根に枯草立ってをり | 井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 | アートじゃなァと溜息で見る前衛展
わからんと投げだしさすがは文学賞 | 池田亮二
池田亮二 |
| 【佳作】 | 那須おろしテント吹き飛ぶ陶器市
気の利いた受付ロボット冬に入る
早すぎる忘年会に落ち着かず | 石塚柚彩
石塚柚彩
石塚柚彩 |
| 【佳作】 | 抜けつきてすっからかんや木の葉髪
愛称や梅干干し柿ばばあの名 | 泉 宗鶴
泉 宗鶴 |
| 【佳作】 | 水涸るゝロサンゼルスと地続きに
小太りな狸顔した猫のみて
あぶく銭搔き込む熊手求めたし | 伊藤浩睦
伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 所在無い冬至の我に影は有る
缶コーヒー百円玉の股火鉢
メロドラマ涙腺に降る冬の雨 | 伊藤洋二
伊藤洋二
伊藤洋二 |

- | | | |
|------|--|----------------------|
| 【佳作】 | 目葉をさして口開く秋うらら
遠くまで飛んだつもりの飛蝗かな
初夢や富士に登つてしまひける | 稲沢進一
稲沢進一
稲沢進一 |
| 【佳作】 | 一晩中かかつて太り軒氷柱
街路樹やお役御免の落葉たち | 稲葉純子
稲葉純子 |
| | サザエさん読んでニンマリ夜長かな | 井野ひろみ |
| 【佳作】 | 次々とシンクロの如潜る鴨 | 井野ひろみ |
| | 座談会小鳥は小春の石の上
オリオンに笑はれベンチの忘れ物 | 上山美穂
上山美穂 |
| 【佳作】 | 唇や雪にファーストキスをされ | 上山美穂 |
| | 嫁が君密かに待つて早寝かな | 氏家頼一 |
| 【佳作】 | 先駈けの鴉に見らるる初詣
孫が来て喰積浚へて帰りけり | 氏家頼一
氏家頼一 |
| | 十二月暦の余白埋めつくす | 梅岡菊子 |
| 【佳作】 | 一輪を見つけて安堵探梅行
興奮の色をしてをり冬夕焼 | 梅岡菊子
梅岡菊子
梅岡菊子 |
| 【佳作】 | 手袋ひとつ粉雪の校庭に
冬の空夫もスーパームーン並み
初恋の人にマフラー編みしこと | 梅野光子
梅野光子
梅野光子 |
| | 着ぶくれて毀誉褒貶はふところに | 越前春生 |
| 【佳作】 | 新年の松を担いて禿頭 | 越前春生 |
| | 能登の朝市寒風の鳶狙ふ | 小笠原満喜恵 |
| 【佳作】 | 一期一会や逝く秋の寺参り
能登湾に波の花追ふ鷗かな | 小笠原満喜恵
小笠原満喜恵 |
| 【佳作】 | 来る年へ課題繰り越す除夜の鐘
野良猫も年始に来たる雪の朝 | 岡野 満
岡野 満 |

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | まず炬燵ありきの隠居爺かな
煤迷の地球一周家の前 | 小川鈍太
小川鈍太 |
| | おお寒や金釘流の診断書
隣室の妻から寒波来るとメール | 加川すすむ
加川すすむ |
| 【佳作】 | 座布団も呉れぬ炬燵のオヤジギャグ | 加川すすむ |
| 【佳作】 | どんぐりを手の平にのせ子にもどる
破れ蓮に今の我身を重ねけり
開戦日昭和の子ども八十路過ぐ | 川島智子
川島智子
川島智子 |
| | 二次会を決めかね歩く穴惑ひ
蛇穴に入るモナリザの手紙来る | 久我正明
久我正明 |
| 【佳作】 | 時々は尻も焚かれる焚火かな | 久我正明 |
| | 新型のマスク被りて無敵なる
極月の非常口にはピクトさん | 工藤泰子
工藤泰子 |
| 【佳作】 | 手の内は見せてたまるか花八つ手 | 工藤泰子 |
| | 風邪引と隣合はせの土俵際
トナカイの睫毛はカールクリスマス | 桑田愛子
桑田愛子 |
| 【佳作】 | 金平糖神が溢して冬銀河 | 桑田愛子 |
| 【佳作】 | 櫓火より炉話に顔赤らめる
道ならぬ恋のはじめの小火騒ぎ | 小林英昭
小林英昭 |
| | 宇都宮餃子も縮む空っ風
濡れ落葉恋路の靴にからみつく | 下嶋四万歩
下嶋四万歩 |
| 【佳作】 | 根性を叩きなおして風邪をひく | 下嶋四万歩 |

秋の旅ツアーのバスがネズミ取り シナモンはばあばの魔法焼き林檎	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
【佳作】 姑御に慣れ嫁肥ゆる秋の夜	
広辞苑重石に使ふ文化の日 義理堅きカーテンコール身にしみて	白井道義 白井道義 白井道義
【佳作】 論戦の子規の一句や柿を剥く	
【佳作】 婚活の梯子しているクリスマス	鈴木洋子
冬将軍様今ストーブ出しますから	鈴木和枝
【佳作】 カマキリの静止負けてなるもんか	鈴木和枝
聞くための耳一つは老後用	鈴木和枝
夕食後デザートひとつみかんかな なべ料理家族だんらんおでん食べ	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】 手袋シカバンを提げてスニーカー	
【佳作】 夕映えに泣き出しそうな雪だるま 山姥の不老長寿や薬喰	高田敏男 高田敏男
皿の絵を堪能させる薄造り 落ち葉踏む色鮮やかな音奏で	高橋ユミ子 高橋ユミ子 高橋ユミ子
【佳作】 美術品なり虫食ひの柿紅葉	
木枯や荒ぶ世間にある人情	田中 勇
【佳作】 初時雨手配の終へし飯場にも	田中 勇
河内から飛鳥を巡る小春かな	田中 勇
【佳作】 聴診器胸に寒々「年ですnee」 ファンファーレさあ出番とぞ冬将軍 「年取ったなあ」「お互い様」とおでん鍋	田中早苗 田中早苗 田中早苗

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | ほどほどのほども忘るる忘年会
初詣前も後ろも外国語
初詣神も通事をほしげなり | 田村米生
田村米生
田村米生 |
| 【佳作】 | 下戸の真似鱈酒前に剥がれ落ち
皆にバレ陰でつまんだ沢庵を
おばちやんは餅もつけるし口も突く | 月城花風
月城花風
月城花風 |
| 【佳作】 | 生身魂己の年を人に聞く
紅葉はライトアップに寝て居れず
宇宙より見れば地球は蟻の群れ | 津田このみ
津田このみ
津田このみ |
| 【佳作】 | 絵にならぬラジオの声や秋相撲
危機あおる危機感ない人開戦日
銀杏散る老子ネットに手をあぐね | 土屋泰山
土屋泰山
土屋泰山 |
| 【佳作】 | 歩けたとけふに○する初暦
平和だと？何がめでたい開戦忌
再発と追伸二文字賀状書く | 飛田正勝
飛田正勝
飛田正勝 |
| 【佳作】 | 講釈を言っじいさん独楽廻し
甘酒に頬をほんのり下戸美人 | 中井 勇
中井 勇 |
| 【佳作】 | 背伸びして盗む残りの柿一つ
罪もなき柿を裸にして吊す
一升びん目で測りつつ冬ごもり | 新島里子
新島里子
新島里子 |
| 【佳作】 | はっきりと肉饅頭の冬の午後
小春日や母の話は志ん生調
No.12マスカット味の林檎の木 | 西岡幸子
西岡幸子
西岡幸子 |
| 【佳作】 | 君の名の思い浮かばず年忘れ
清潔な竹輪の穴を去年今年 | 西をさむ
西をさむ |
| 【佳作】 | 忙しさ寒さ加速の師走かな
被害増え牡丹鍋では間に合はず
外凍てもビールを誘うおでん鍋 | 花岡直樹
花岡直樹
花岡直樹 |

- | | |
|--|-------------------------|
| 頭の中に自分が二人ふぐと汗
きたるべき莫迦の一人や日向ぼこ | 原田 曄
原田 曄 |
| 【佳作】 去年今年アンドロイドに見守られ | 原田 曄 |
| 夫婦喧嘩難攻不落冬籠 | 久松久子 |
| 【佳作】 百キロの子に風邪薬倍飲ます | 久松久子 |
| 【佳作】 白息や聞き捨てならぬ嘘まじる
哲学の顔してをりぬ寒鴉
冬の雲アルミニウムでできてゐる | 日根野聖子
日根野聖子
日根野聖子 |
| 【佳作】 色づいてラストダンスの楓かな
ころりころ踊る落葉に踊る犬
スイッチオンルンバに頼る文化の日 | 廣田弘子
廣田弘子
廣田弘子 |
| 【佳作】 ぼんやりと今年も過ぎし十二月
靴下を脱げばひんやり師走かな
夜明け前時計の音の冷たさよ | 細川岩男
細川岩男
細川岩男 |
| カレンダー残り二枚にある寒さ | 堀川明子 |
| 【佳作】 立冬や股引き引つ張り出してゐる | 堀川明子 |
| 【佳作】 借財はなくも気忙し年の暮
降る雪に煩惱混じる除夜の鐘 | 本門明男
本門明男 |
| ファビングをする人多し冬ざるる
病室に同病多しあなぜ吹く | 前田和男
前田和男 |
| 【佳作】 桐一葉落ちて地球を揺らしけり | 前田和男 |
| 【佳作】 加齢とも寒の踵に皸の寄り
線路掃く男の背なに銀杏の葉
参道の松ののびのび秋の旅 | 松井寿子
松井寿子
松井寿子 |
| ほろ酔いをマスクでかくし教会に
竹馬よりカードを翳し結界に | 松井まさし
松井まさし |
| 【佳作】 日向ぼこじゃまされ老猫歯をむきぬ | 松井まさし |

- | | |
|---|-------------------------|
| 【佳作】 胸の重石軽くなるはず枯れてごらん
着ぶくれて大笑いして誰から死ぬ | 南とんぼ
南とんぼ |
| 【佳作】 湯豆腐のわしやわしや笑ふ万太郎
進化する火星にぽんと炭をつぐ
日記買ふ凹む頭の真ん中に | 椋本望生
椋本望生
椋本望生 |
| 鳥威し平和の鐘は鳴らされず
【佳作】 秋暑しをとこのやうな嫁の靴
仮の世に二晩泣けり枯蓮 | 村松道夫
村松道夫
村松道夫 |
| 【佳作】 山茶花や我は未だに迷ひ人
子規堂にしばし軒借る寒すずめ
枯れ木立淡き光をふりまいて | 百千草
百千草
百千草 |
| 無口からはみ出ておりぬ息白く
【佳作】 のど飴の左右に転ぶ小春かな
子猫とてあなどるなかれプロの技 | 森岡香代子
森岡香代子
森岡香代子 |
| 【佳作】 出無精を寒さのせいにしてをりぬ
極月を知らずに読んで「極めつき」
縁談のご破算となる大噓 | 八木 健
八木 健
八木 健 |
| 凧や男はつらいよ風天忌
【佳作】 風邪引かぬは馬鹿なんだと自虐せり
ぼろ市のでんでに並べフリマとか | 八洲忙閑
八洲忙閑
八洲忙閑 |
| 【佳作】 ジャケットの背中で語るただのロゴ
ゆるキャラが睨みをきかす達磨市
獅子舞に甘噛みされて舞い上がる | 八塚一青
八塚一青
八塚一青 |
| 鯉の眼鯉の眼して歌留多とり
【佳作】 お年玉渡せば孫の風見鶏 | 柳 紅生
柳 紅生 |
| 元旦に願ひし祈りピンコロリ
【佳作】 年賀状返信無理となりました
都合良き事だけ聴こえ新年会 | 柳澤京子
柳澤京子
柳澤京子 |

	客引きの追ひかけまはすクリスマス	柳村光寛
【佳作】	大寒の顔なり出会ふどの顔も	柳村光寛
	去年今年姓は丁寧名は謙虚	柳村光寛
	露地商店おせち幟の賑へり	山下正純
	水鳥の水湧くごとく訪れたり	山下正純
【佳作】	孤高の身知る由もなき冬バツタ	山下正純
	冬の日の大仏さまは立子の句	山本 賜
【佳作】	剥き方のどれが正しい冬蜜柑	山本 賜
	つぎつぎに先を越されし年賀欠礼	横山喜三郎
【佳作】	むささびが棲まふ社へ願ひごと	横山喜三郎
	五官にて隙間風追ふ神の留守	吉原瑞雲
	注連はづし寡黙に戻る厨妻	吉原瑞雲
【佳作】	極楽や生きて夜具敷く去年今年	吉原瑞雲